



事業成長に不可欠な グローバルな視点

ごみ問題に廃棄物の適正処理と有効活用で挑む「株式会社ジー・エス」の代表取締役 郷成祿氏に事業成功の秘訣とそのビジネスモデルを聞く。

文=松浦良樹 写真=丸谷裕一

資源高騰に 高需要製品を製造

度には104万6000トン、09年度予測では145万7000トンと大きな伸びを示す。

資源高が続く中、

同社は07年7月に東京・京浜島

「RPF」が注目を集める。このRPFとは

に自社工場を新設し、一般廃棄物をはじめ建設資材・粗大ごみと

マテリアルリサイ

いったさまざまな産業廃棄物の収集運搬・選別とともにRPF製造

クルが困難な古紙

に着手。製紙会社、石灰企業・鉄鋼

やプラスチックを

企業への提供を行い、再資源化し

原料とした高カロ

ている。1日13・2トンの混合廃棄

リーの固形燃料。

物の処理能力があり、4・8トンの

発生履歴が明らか

製造能力を持つ工場だ。

な選別された一

大量のごみが排出される東京

般廃棄物を原料

に工場があるメリットは大きい。

とするため、家庭

しかし、廃棄物を運び、処理する

などから出る一

だけでは生き残れないのは百も

般廃棄物を原料

承知。そのような中、中間処理事業

としたRDFと

に乗り出す経緯をこう説明する。

違い、品質の安定

「埋める・燃やすといった処理だ

した燃料だ。

けでは最終処分場のキャパやダイ

「製紙会社や工場

オキシシなど環境問題への影響が

などでの代替燃料と

憂慮される。ごみ処理はグローバル

して需要が伸びてい

や資源としての有効活用貢献す

ます」(郷氏)というよ

ることが当社の役割です」

うに、日本RPF工業

会が今年4月発表した

調査でも2002年には

9万3000トンにすぎな

かったRPFの需要が07年

資源の流失を防ぎ 事業拡大を目指す

収集から中間処理、リサイクル



までをワンストップで行えるのが同社の強み。しかし、同業他社が中国や海外へ（ペットボトルなどの「原料」を輸出して利益を上げる中、資源の国内流通にこだわる。

「ごみも資源。大切な資源を海外へ流出させるのは躊躇する。一度海外へ出てしまった資源は、どのように使われるか分からない。安全面を考えると国内で責任が明確な形での流通が望ましい」

自社で一貫した処理フローを持つ同社の顧客は、環境に対する関心が高い企業ばかりだ。入り口から出口までの業務フローが自社内で確立している安心と安全が評価された結果だといえる。

「まだまだ成功しているとはいえないませんが、創業以来着実に事業が継続している理由はスタッフのリアルサイクルプランナーとしてのモチベーションの高さとプライド。そしてお客様に絶対的な信頼を得るスタッフの誠実な仕事ぶりがあるからこそなんです」

同社には長年培ってきた手選別のノウハウと実績がある。環境配慮への思いも強い。ニーズには親身になって対応するが、できないことはできないと、明確に意思表示



示できる誠実さも同社が成長した一因だ。ルールを遵守しながら着実に成長するビジネスモデルを構築した。

09年度初頭には風力選別機を導入し、より一層の効率化を進め、ごみを出さず資源に変え、環境に配慮する姿勢をこれまで以上に打ち出していく方針だ。

それとともに現在6億円あまりの年商を15億〜20億円へと伸ばしていきたい考えだ。

「固形燃料分野以外の分野においてもチャンスを狙っていますが、

まずはRPFに軸足を置き売り上げを強めていきたいです。何より材料や機器など試行錯誤を繰り返しながら進めてきたこの事業をまずは軌道に乗せていきたい」

未来を変える一手「思いやり」の心

事業継続には「思いやりが重要」という郷氏。スタッフ力が高いのも顧客ニーズに応えようとする思いも、会社、そしてスタッフへの愛情もすべてこの思いやりが「原点にある」という。

「これからの時代を作っていく若い人たちからかっこよく思われること、そしてスタイリッシュであることが必要だと考えているんです。人への思いやりも地球への思いやりも同じことなんです」

分別という一時間でごみは資源へと変わる。「ごみも分別すれば資源」という企業や1人ひとりのちょっとした「思いやり」が環境に考慮することになるのかもしれない。

経済活動において必ず排出されるごみを資源として活用するジー・エスの取り組みは今後ますます重要になる。

会社概要

株式会社ジー・エス
所在地/本社・白金工場
東京都港区白金1-1-6
営業所・京浜島工場
東京都大田区京浜島2-14-10
設立/1991年4月
資本金/1,000万円
URL/<http://www.gs-recycle.com/>
TSR企業CD/29-564274-2



- 収集からリサイクルまでワンストップで対応
- スタッフ、環境への「思いやりの心」
- できないことはできないと明確に伝える

